

令和元年度諏訪湖全域溶存酸素（DO）濃度の調査結果（中間報告）

環境保全研究所

1. 目的

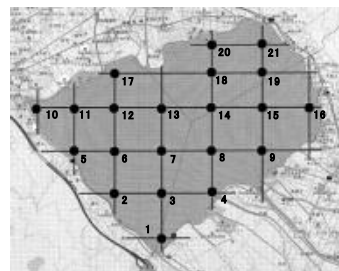
多項目水質計を用いて、貧酸素水塊が発生する夏場を中心に湖内全域の溶存酸素濃度等の分布を把握し、貧酸素水塊の発生・解消メカニズムの解明、貧酸素対策の検討及び底層溶存酸素量の環境基準類型指定のための基礎資料とする。

2. 調査測定時期／回数、方法

5月から10月まで月1回

測定地点は図1のとおり

各地点における鉛直プロファイル測定



3. 調査結果の概要

図1 全域 DO 調査の測定地点

1) 経月的変化

全体として、調査を始めた5月から、6月、7月、8月と盛夏期に向かって貧酸素化が進み、9月以降は貧酸素状態が改善していった。

5月、8月、10月の各月の全地点における DO に関する鉛直プロファイルを図2～図4に示した。

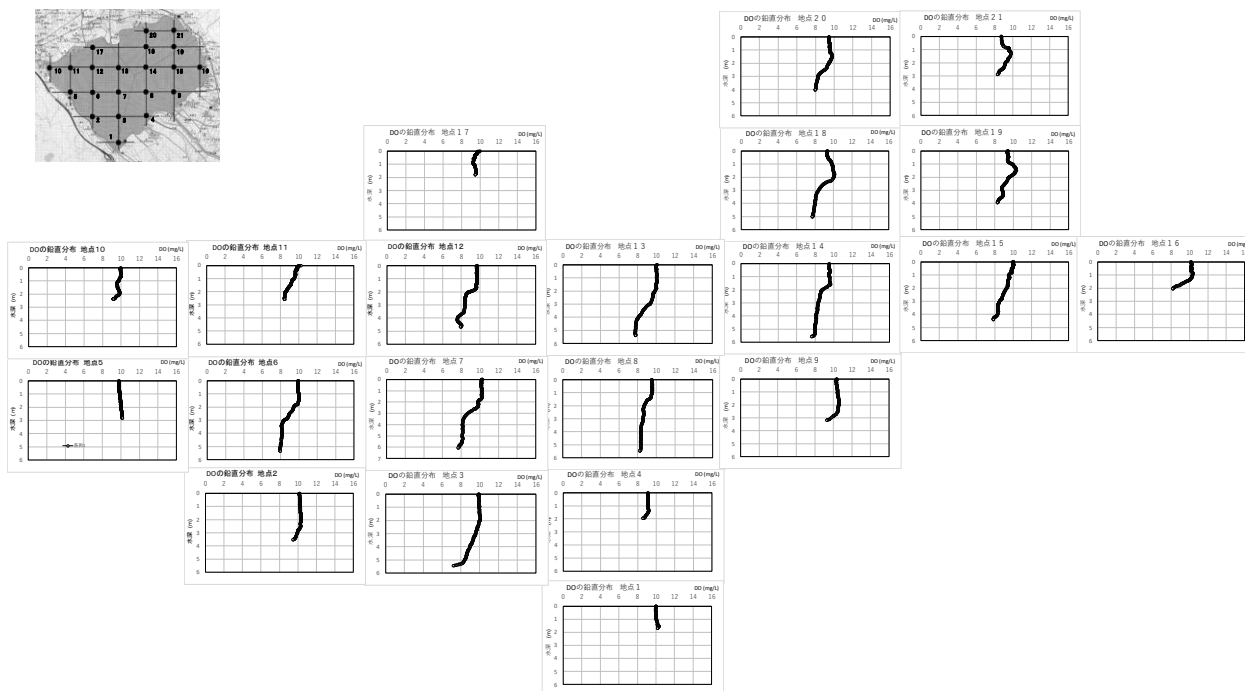


図2 諏訪湖全域DO調査（5月分：2019/5/22）

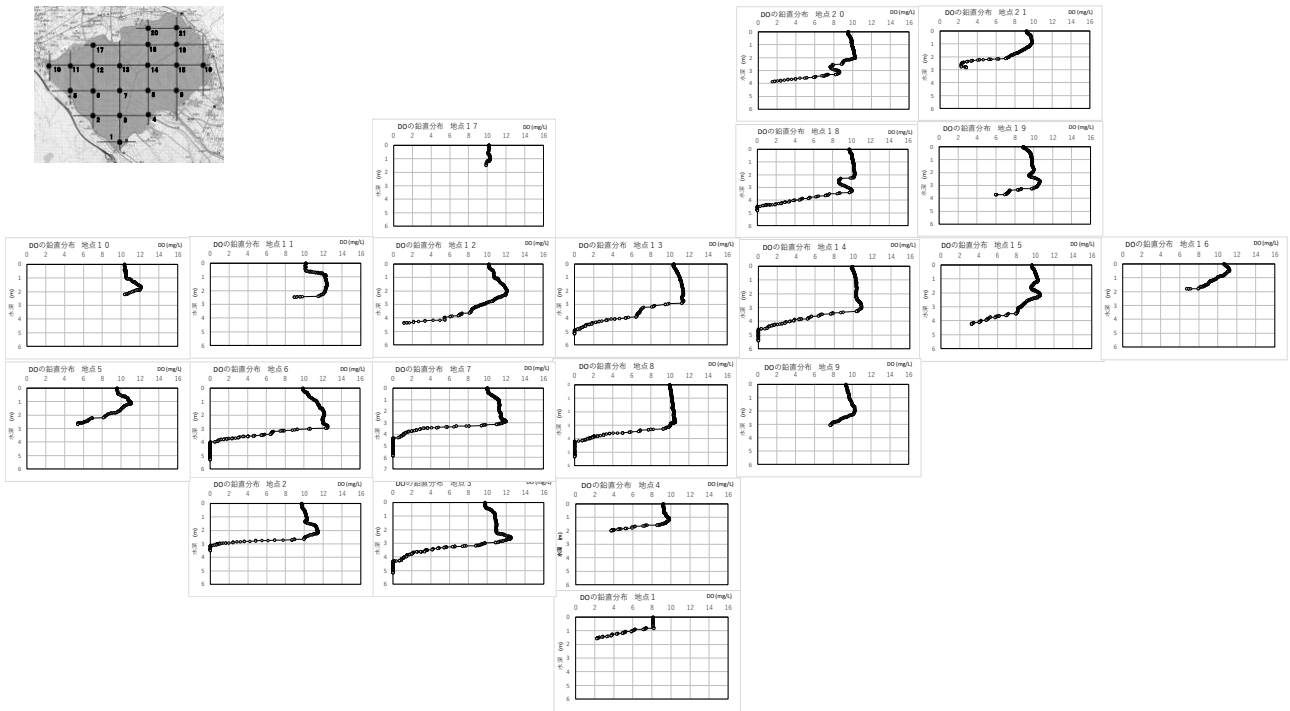
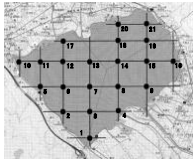


図3 諏訪湖全域DO調査 (8月分：2019/8/9)

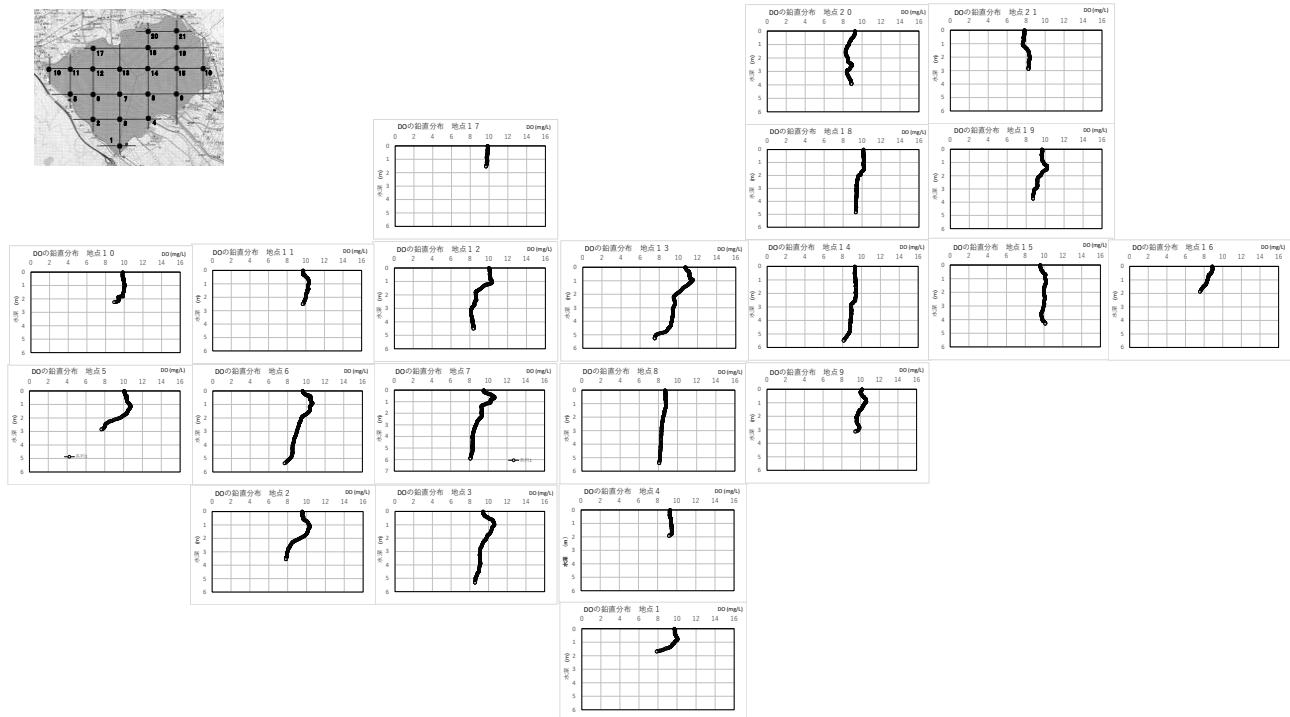
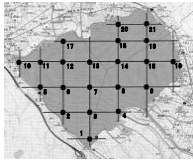


図4 諏訪湖全域DO調査 (10月分：2019/10/28)